

数学検定募集のため、生徒の赤木さんに書いて頂いたポスターを丸善岡山シンフォニービル店様のご厚意により、店内に掲示して頂いています。今回は、感謝を込めて、丸善書店様（以下「丸善」と表記）に関わる話題を書きました。まず、その歴史です。明治2年、近代日本のスタートと時を同じくして「丸善」は誕生しました。創業者、早矢仕有的は、慶應義塾（慶應義塾大学の前身）で福澤諭吉の教えに触れ、「いま自分が果たすべきことは日本人の幸せのために、外国商館に奪われつつある国益を取り戻すため事業を起こす」ことだと決意し、「丸善」を創業しました。

（創業時の社名は「丸屋商社」その代表者として「丸屋善八」という架空の人物を記載したことから丸善の名が生まれたとのこと。また「丸善」によるとハヤシライスのハヤシは早矢仕の名に因むとのことです。）明治維新直後、人々は新しい知識を得ようと知的好奇心は旺盛で、「丸善」が提供した洋書はその期待に応えるものでした。創業時もなく、向学心に燃えた社員のため丸善夜学校も社内に設けました。また、理工系書籍の出版社でもあり、『いかにして問題をとくか』『理科年表』『丸善7ケタ対数表』などはロングセラーとなっています。戦前の「丸善」のイメージをよく表した次のような寺田寅彦の文章があります。『子供の時分から「丸善」という名前は一種特別な余韻をもって自分の耳に響いたものである。田舎の小都会の小さな書店には気のきいた洋書などはもとよりなかった、何か少し特別な書物でもほしいと言うと番頭はさっそく丸善へ注文してやりますと言った。中学時代の自分の頭には実際「丸善」というものに対する一種の憧憬のようなものが潜んでいたのである。』寺田寅彦は物理学者で、夏目漱石の文芸上の弟子、文学にも自然科学の理解が重要と考えた漱石に愛され、「吾輩は猫である」に登場した「首縊（くく）りの力学」の話をする物理学者の「水島寒月」、「三四郎」の「野々宮宗八」のモデルと言われています。「天災は忘れた頃にやってくる」は彼の言葉とされています。この「首縊りの力学」については、中谷宇吉郎の随筆に記述がありました。それによると、漱石が『猫』を書き出した頃、当時大学院生の寺田寅彦が英国の物理雑誌で「力学的並に生理学的に見たる首縊りに就いて」という論文を見て、その話を漱石にしたところ、大変興味を持ち、その論文の内容が間もなく、寒月君の「首縊りの力学」となって現われたということでした。中谷宇吉郎は雪の結晶の美しさに魅せられ、雪や氷に関する科学の分野をつぎつぎ開拓し、世界で初



めて人工的に雪の結晶を作り出し、雪の結晶の形は温度と水蒸気の量で決まることを発見した科学者です。

「雪は天から送られた手紙である」
はかれの言葉です。片山津温泉には
「中谷宇吉郎 雪の科学館」があるということです。
行ってみたいはいかがでしょうか？

